

## みらい科 校内研究学習指導案

5年

単元名  
「食に学ぶ  
～米博物館をつくろう!～」

日時 令和5年10月27日(金) 5校時  
場所 5年1組・2組 教室  
授業者 5年1組  
5年2組

### 1 単元の目標

米づくりについて、生産工程、人々の協力関係、技術の向上、運送、それに伴う費用や価格などに着目して、さらに調べてみたい課題を設定しグループで探究活動に取り組むことを通して、新たな価値を創造する持続可能な社会づくりを目指そうとする力を伸ばす。また、周りの人との相互理解を深め、協働的な学びを深める。

### 2 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①言語・数量・情報などを使いながら、調べたり工夫して表現したりすることができる。	①自分の活動がゴールに向かってどの程度進んでいるのかを可視化し、どうすればうまく学ぶことができるのかを考えたり、それに従って計画を立て直したりすることができる。	①多様な人々との相互理解を深め、協働して問題解決をしていくことができる。 ②社会や自然の課題に向き合い、新たな価値を創造する持続可能な社会づくりを目指そうとしている。

※国語科・社会科は、それぞれの教科での学習も実施するため、本単元ではなく各教科で評価を行う。

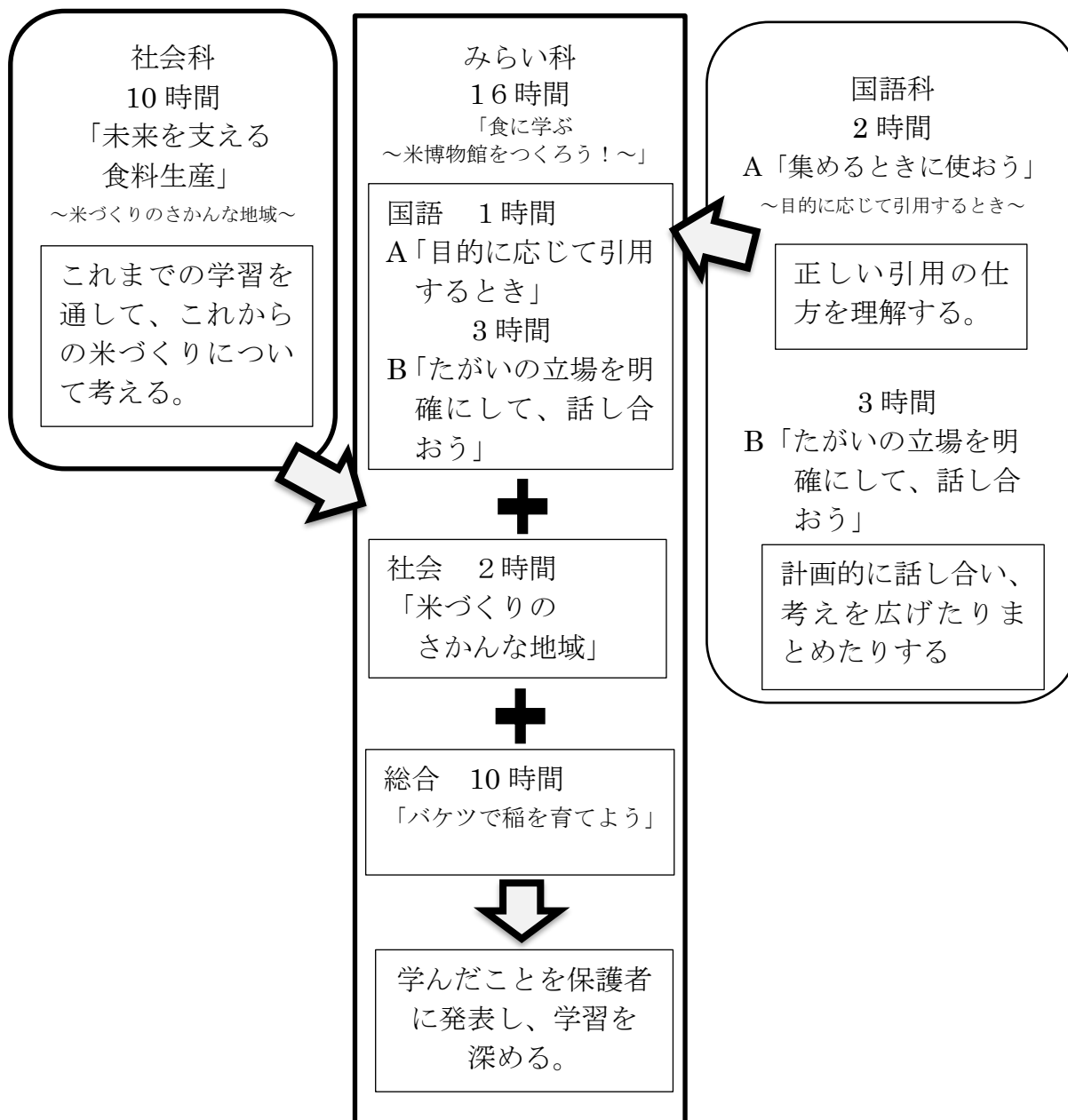
### 3 単元について

#### 【教材について】

本教材は、社会科「米づくりのさかんな地域」についての学習で学んだことを発展させ、児童自らが「その理由をもっと詳しく調べてみたい!」「これについてはどうなっているの?」など見出した課題を解決・探究していく学習である。社会科「米づくりのさかんな地域」では、我が国の稲作が自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることなどを学習した。しかし、学習を進めていく中で、児童が興味をもつ点や気になる点、疑問に思う点はそれぞれ異なった。

本教材は、その思いを形にしたり、行動にうつしたりして、自分たちが立てた課題を自ら解決・探究していくことを主な学習内容とした。社会科の学習にとどまらず、そこで生まれた疑問や探究心を仲間とともに追究していく学習をみらい科として設定することで、社会事象を自分事としてとらえ、他者と協働しながら解決しようとする力が伸びることを期待したい。

#### 【単元構想図】



#### 【児童について】

本学年の児童は、知的好奇心が強く、様々なことを前向きにとらえ学習を進めていける児童が多い。社会科などでは、グループでの調べ学習を好み、自分たちが調べたことを全体に発表したり、調べた内容を聞き手に分かりやすく表現したりすることができる。グラフィックレコーディングを活用し、自分たちの思考を整理できる児童も数名いる。一方、そのように主体的に進んで活動に取り組むことができる児童に頼ってしまう児童も中にはおり、一人ひとりの活動の充実度に差が出てしまうということも少なくない。そこで、本活動を通して協働的な学びを重視し、資料や学習用具の充実、適切な言葉かけ、学習計画の柔軟さなどを工夫しながら支援・指導していきたい。

#### 【指導について】

本学習は、日本の米づくりについて児童自らが新たな課題を見付け、それを児童たち自身の力で解決・

探究していく学習である。思考をウェビングマップで広げさせたり、グループで見通しをもって学習計画を立てさせたりして、できる限り児童の力で成し遂げられるようにし、協働する楽しさを味わいながら学習を進めさせたい。

また、指導者側が他教科学習との「つながり」を意識して指導・支援する。学習内容のつながりはどの教科の学習でも意識していかなければならないことだが、本学習では、その「つながり」が「深まり」に発展すると考えた。本学習を実施する時期に合わせ、他教科で関連がある学習を同時期に行うよう柔軟な学習計画を作成し、児童が様々な教科での学習を結び付けて思考を深められるようにした。

#### 4 研究主題との関連

目指す児童像 「自ら考え、判断し、行動できる児童」

##### ① 自ら活動に取り組むことができる児童にするために

本学習では、社会科での学びから生まれる児童の思いを学習課題として設定した。児童の思いに沿った発展的な学習であるため、児童の意欲と思考の高まりがカギとなる。そのことをふまえ、イメージマップを活用することにした。まずは、個人の思いや願いをウェビングマップに書き込ませながら、児童一人ひとりの考えを可視化させる。

##### ② 自分で考え、判断することができる児童にするために

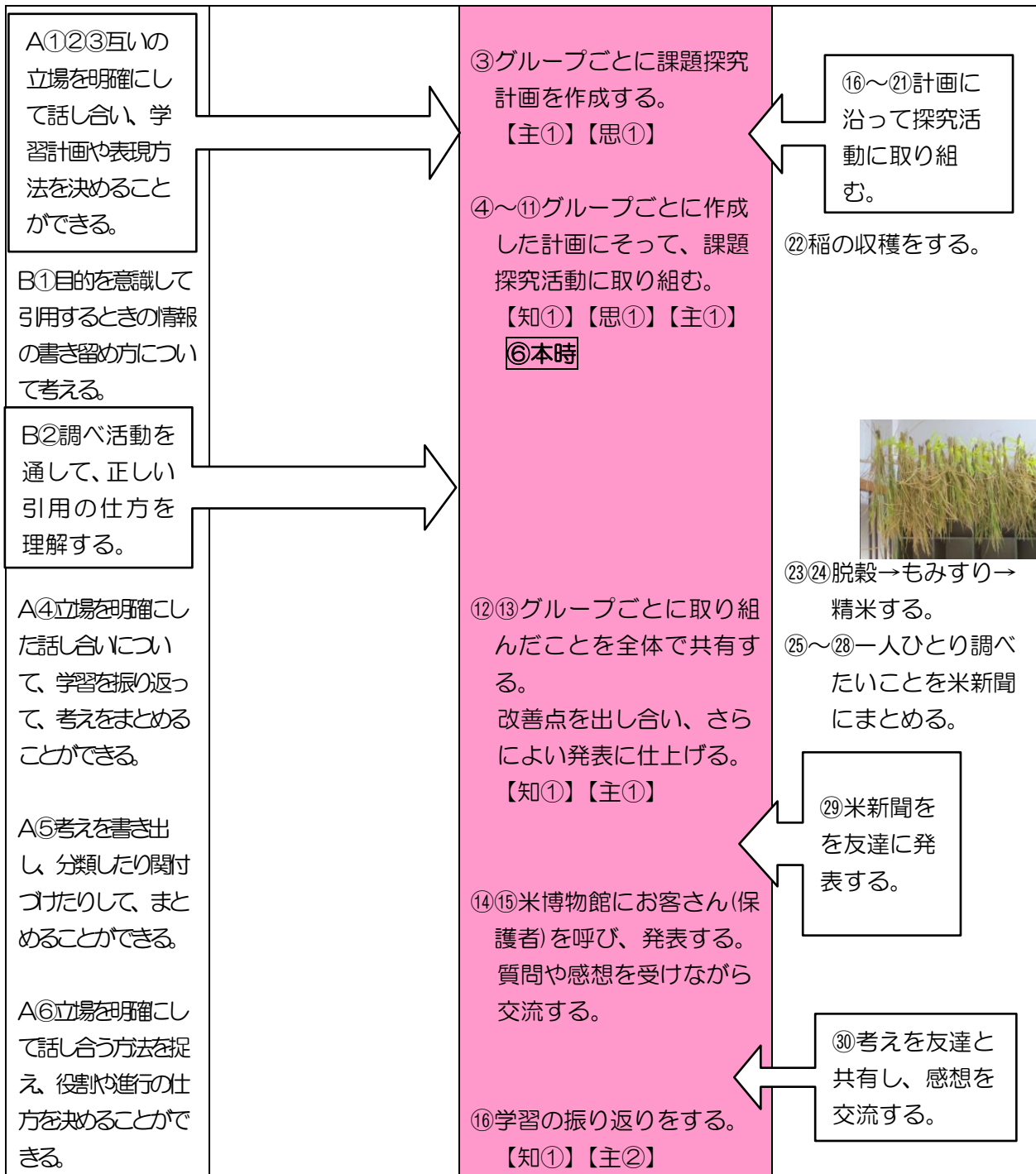
児童同士で学習計画を考え、活動に取り組むことができるよう、学習計画カードを活用した。設定した学習課題を解決・探究していくための計画をグループで相談する時間をとり、見通しをもって学習に取り組めるような計画を立てるよう指導する。この計画は、学習途中に変更することも可能とし、柔軟に対応できるようにする。作業中は、ホワイトボードに貼り、各グループの進行具合を確認し合ったり、計画を意識して活動したりできるようにする。

##### ③ 協働的に行動（表現）することができる児童にするために

最後の形となるものの表現方法をグループごとに自由に選ばせることにした。学習を進めていく中で、調べる方法（図書館にてのアンケートBOX設置、農家やスーパー、伊那市観光センターへのインタビュー、実際の調理など）可能な限り実行できるように配慮した。学習の終末に学んだことをまとめる方法も、プレゼンテーションや模型の工作、パンフレット、本、模造紙にまとめるなど表現方法を自由に選ばせる。また、児童一人ひとりの持ち前の力を生かして取り組めるよう、活動内容を分担したり、得意分野が活きたりするような表現方法を選ぶよう指導する。

## 5 学習指導計画（全16時間：本時6/16）

<b>国語</b> A たがいの立場を明確にして、話し合おう (3/6) B 集めるときに使おう (1/2)	<b>社会</b> 米づくりのさかんな地域 (2/10)	<b>みらい</b> 食から学ぼう ～米博物館をつくろう！～ (全16時間)	<b>総合</b> バケツで稲を育てよう (10/30)
	① 自分たちが食べている米の生産地。 ② 米づくりに携わる人々の工夫や努力。 ③ 1年間の米づくり作業の流れ。 ④ 南魚沼市の米づくりの工夫。 ⑤ 米づくりが短い労働時間で多くの米を生産できるようになった理由。 ⑥ 短い労働時間で多くを生産するための工夫や努力。 ⑦ 米の出荷や輸送、販売に携わる人々と米の値段との関係。 ⑧ 日本の米づくりの課題。 ⑨ 米づくりの課題を解決するためにどんなことができるか。 ⑩ これまでの学習を整理して、これからの米づくりについて考える。	① ② ウェビングマップを使って思考を整理し、課題を設定する。 【主①】【思①】	① 日本人は、なぜ昔に比べて米を食べなくなってきたのか。 ② 米づくりの手順や、米についての知識を広げる。 ③ 米づくりの実際を学ぶ。 ・土づくり ・バケツの準備 ・芽出し ・種まき ・苗の移しかえ ・中干 ④～⑦ 米を収穫するまでに必要なことを調べる。 ⑧～⑬ 米を収穫するまでに必要な世話をを行う。



## 6 本時の指導計画（6 / 16時間）

### （1）本時の目標

グループの学習計画にそってこれまで培った基礎力をもとに、自らが設定した課題に対して、協働して解決・探究活動に取り組む。

### （2）評価規準

【知①】 言語・数量・情報などを使いながら、調べたり工夫して表現したりすることができる。

【思①】 自分の活動がゴールに向かってどの程度進んでいるのかを可視化し、どうすればうまく学ぶことができるのかを考えたり、それに従って計画を立て直したりすることができる。

【主①】 多様な人々との相互理解を深め、協働して問題解決をしていくことができる。

### （3）展開

	○主な学習活動 C 予想される児童の反応	・指導、支援      ◇評価（観点・方法）
導入	○前時までを振り返る。 ○本時の計画を確認する。	・本時で一人ひとりが行う活動を全体に伝えることで、明確に活動内容の意識をもたせる。また、みんなで課題解決や作品製作に向かう雰囲気を作る。
展開	○グループに分かれ、それぞれの課題にそって活動する。 【めあて】 学習計画にそって、グループで協力し、米博物館の展示物の準備をしよう。  【各グループのテーマ】 A 日本の米 } B 米の魅力 } 5年1組の教室 C 農業機械 } D 米の歴史 } E 世界の米 } 5年2組の F 米の人気ランキング } 教室  C：〇〇先生にアンケートしたいな。 C：こんな風にまとめよう。	・グループごとに進度や内容が異なるため、各グループの学習進度を把握し、活動が進んでいない場合は、学習計画カードを確認させ、具体的にやることを助言する。  ◇言語・数量・情報などを使いながら、調べたり表現したりすることができる。 【知①】（観察・学習シート）  ◇自分の活動がゴールに向かってどの程度進んでいるのかを可視化し、どうすればうまく学ぶことができるのかを考えたり、それに従って計画を立て直したりすることができる。【思①】（観察・学習シート）  ◇多様な人々との相互理解を深め、協働して問題解決をしていくことができる。 【主①】（観察）
まとめ	○学習の振り返りをし、学習シートに書く。 ○振り返りの発表を聞き、次時につなげる。	・予定内容に変更があった場合は、学習計画表に加筆、修正をさせる。 ・数人に発表させる。

**補助資料**

**教科の観点別評価規準**

知識・技能

<p>国語 A 集めるときに使おう B たがいの立場を明確にして、話し合おう</p>	<p>社会 米づくりの さかんな地域</p>	<p>総合 バケツで稲を 育てよう</p>	<p>みらい</p>
<p>A 情報と情報との関連付けの仕方を理解し使うことができる。 B 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。</p>	<p>・我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解することができる。</p>	<p>・課題解決のために図書やインターネットを用いて調べたり、必要な情報を整理・工夫してまとめたりしている。</p>	<p>・他者の考えを受け入れたり、異なる意見を尊重したりしながら活動に取り組み、協力して学びを進めることで、みんなの思いや願いを実現しようとしている。</p>

思考・判断・表現

<p>国語 A 集めるときに使おう B たがいの立場を明確にして、話し合おう</p>	<p>社会 米づくりの さかんな地域</p>	<p>総合 バケツで稲を 育てよう</p>	<p>みらい</p>
<p>A 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 B 計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。)</p>	<p>・生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国とのかかわりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。</p>	<p>・体験したこと、調べたこと、考えたことを通して、相手に伝えることができる。 ・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、表現することができる。</p>	<p>・他者と関わりながら、考えたことを視覚的にまとめたり、自他の考えを表したりしながら、活動を俯瞰的にとらえ、新たな発想で提案することができる。</p>

主体的に学習に取り組む態度

<p>国語</p> <p>A 集めるときに使おう</p> <p>B たがいの立場を明確にして、話し合おう</p>	<p>社会</p> <p>米づくりの さかんな地域</p>	<p>総合</p> <p>バケツで稲を 育てよう</p>	<p>みらい</p>
<p>A 目的に応じた引用の仕方を理解し、学習課題に沿って、引用カードを書こうとしている。</p> <p>B 粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって、身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米づくりの良さや課題に関心を持ち、主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決すべき課題に目を向け、他者と関わり合いながら進捗状況を確認、目的を達成するための見通しをもって解決可能な方法を考え、実行することができる。</li> <li>自分と地域社会とのつながりに気づき、地域の活動に進んで関わり、地域社会の良さを発信しようとしている。また、活動を振り返り、成果や課題に目を向け、地域社会の一員として自覚をもつことができる。</li> </ul>